

豊かな地域資源を活用した観光・交流

本町ではこれまで、豊かな自然資源や特色ある文化を活用し、多様な観光・交流を展開してきました。

しかし、近年、価値観の多様化による消費者ニーズの変化や、コロナ禍の影響を受けた旅行の短期化、旅行先の近距離化、増加するインバウンド旅行者の受け入れなど、対応すべき課題が増えています。

今回は本町で取り組まれている観光・交流事業の状況や、新たな取り組みについて紹介するとともに、今後の観光・交流推進の方向について考えます。

変化する観光需要

近年、価値観の多様化やコロナ禍の影響等により、旅行や観光に対する消費者ニーズに変化が生じています。

地域の資源や文化を体験できる体験型観光の需要が高まっており、またインバウンド需要回復による訪日外国人観光客への対応の必要性も増えています。

国では令和5年に第4次観光立国推進基本計画を策定し、「持続可能な観光」「消費

額拡大」「地方誘客促進」をキーワードにより魅力的な観光地域づくりやインバウンド回復、国内交流拡大に取り組んでいます。

本町でも、第5次小国町総合計画基本計画（令和2年策定）において、指針の一つである「白い森を舞台とする生き生きとした『暮らし』づくり」を実現するため、観光振興を図るとともに、地域資源を活かした産業と新たな観光の創生に取り組むこととしており、多様な観光・交流事業を展開しています。

「小国ならではの」の体験を通じてファンを獲得する

本町では、これまでも伝統文化や自然環境等を観光・交流に活かしてきました。

例えば、横川ダムの白い森おぐに湖におけるワカサギ釣りもその一つです。シーズンになると近隣市町や新潟県、福島県などから多くの釣り客が訪れ、中には10年以上通っているリピーターのかたもあり、冬の小国を代表するアクティビティとなっています。

小国町漁業協同組合では、

湖面の状況や釣果の情報発信、稚魚の放流を行うとともに、初心者向けの体験会等も実施しています。この取り組みが小国を何度も訪れてくれるファンの増加にもつながっています。

小国の冬の手仕事であった「つる細工」を活用したプログラムも人気があります。本町では、昭和50年代からつる細工の技術向上やつる細工愛好家同士の交流を目的としたつる細工講習会を開催しており、今年で42回目となりました。全国各地から参加者が集



▲好天にはワカサギ釣りのテントが多く立ち並び



▲交流を楽しみながらつる細工に取り組む

まり、つる細工の技術向上や新たなアイディア習得等に力を注ぐとともに、小国の雪や食、温泉、町民との交流を大いに楽しんでいきます。この事業の参加者はリピーターが多く、何十年も通い続けているかたもいます。

令和5年からつる細工講習会に参加している新潟県在住の参加者は「元々、手仕事に興味を持っており、つる細工に挑戦したいと思っていただけ、知り合いのかたにすすめられ参加しました。つる細工は自然のものを使って行う

工芸なので、やってみたくて思ってもすぐに体験できることではありません。この講習会では技術を身につけると同時に、ベテランから初心者のかたまで様々な人と交流でき、楽しくつる細工に取り組むことができるため何度も参加しています」とリピーターになった理由を話してくれました。

また、「雪の学校」にも町外のかたが参加します。

これは独自の信仰や技を受け継ぎながら、山とともに生きてきた地元のマタギを先生に、小国の動植物や狩猟について学ぶとともに、地域に根づいた文化を体験できるプログラムです。平成8年から始まり、白い森交流センターいふれの冬期間の集客と地域の活性化も目的としています。

かんじきを履いて、雪山トレッキングを行い、雪面に残された動物の足跡を探したり、小正月の伝統行事である

雪の学校に参加している中野健太郎さん、朔馬さん親子（東京都）

■中野健太郎さん

小国町の知り合いの紹介で平成28年に初めて参加しました。関東では雪を体験できないこともあり、家族が冬の小国町をとっても楽しんでくれたので、そこから何度も参加しています。また、子どもの保育園の友だちが小国町に行ってみたくてくれ、その家族と一緒に参加するようになりました。その家族は自分たち家族が来られなかった年にも参加しており、リピーターになっています。来年には下の子どもを連れていけるようになると思うので、また家族で参加したいと考えています。



▲小国の雪を家族で楽しむ

■中野朔馬さん

昨年、コロナが明けて、久しぶりに雪の学校に参加しました。初めて参加した時よりも体力もつき、山頂から見える景色も以前とは違って見えました。初めて参加した時は保育園だったので、小国町に対して雪がすごかったという印象しかありませんでしたが、昨年参加した際には、大雪に備えた住宅や東京にはない食文化に興味深く、印象に残りました。これから高校生、大学生になり数年後には社会に出ます。社会人になると自由に使える時間も少なくなるかもしれません。雪の学校に参加することは自分にとって貴重な体験になっているので、また参加していきたいです。

さいず焼きを再現した火まつりを体験したりと、参加者からはとても好評です。雪の学校三代目校長の齋藤重美さんは参加者について「登山や自然が好きなかた、雪を体験したいというかたが参加してくれています。開始

から30年が経過し、参加者の顔ぶれも変わってきていますが、初回からずっと参加してくれているかたもいます。また、最近では海外のかたや過去の参加者からの紹介、ホームページを見て参加するかたが増えています。雪の学校を開

本町では、令和3年度より豊かな森林資源を活用して新たな産業を創出する森林サービスマスター推進事業に取り組み、企業を対象としたニーズ調査や地域資源の掘り起こし、モニターツアーなどを実施し、企業の福利厚生や研修向けのプログラムづくりを進めてきました。

新たな取り組み

催すると、地域がにぎやかになり、活気づきます」と話してくださいました。



▲山頂から小国の冬の景色を楽しむ雪の学校参加者

企業向けのプログラムでは、小国町でしかできない体験で、かつ企業にとって意義がある内容として組み立てることが重要であるため、企業の目線に立ち、より魅力的に感じる「小国らしいプログラム」の商品化やお客様を迎えるための体制整備の検討を進めてきました。今年の2月には、東京、仙台、新潟で、森林セラピーや企業としての活用方法に関するセミナーを開催し、白い森の魅力を伝えてきました。

このほか、これまでの事業成果を活かし、新たな滞在型ツアープログラムを作成し、やまがたアルカディア観光局のWEBサイトで令和6年から販売しています。梅花皮荘に宿泊して森林セラピーを体験するプランなど、手ぶらでも小国町の自然や文化、郷土食などを気軽に楽しめる3つのプログラムを掲載しており、初めて本町を訪れるきっかけ



▲YOKAMOS開催のモニターツアーの様子(ウサギ狩り体験)

となることも期待されます。民間事業者でも観光・交流を推進する新たな動きが生まれています。町内で活動する一般社団法人YOKAMOS(以下、「YOKAMOS」)では、令和3年度に環境省の補助を受け、ワーケーションプログラムの開発とガイド人材の発掘等を、令和6年度に観光庁の補助を受け「磐梯朝日国立公園サステナブルツーリズム実証プロジェクト」を実施しています。

今年1月には、本町の食材を使用した特別ディナーの提

供や酒蔵の見学、マタギの案内によるウサギ狩り体験、団子づくりやさいず焼きといった伝統行事の体験など小国の魅力満載のモニターツアーを実施し、ツアー参加者からは「小国らしさを感じた」や「地域のかたと交流し、小国町ならではの体験ができた」といった感想が聞かれ、とても好評でした。

今後の展開についてYOKAMOSの常務理事である村上友梨さんは「ツアー実施によつて地域にお金がまわるよう、小国ならではの体験を収益化することが今後の課題だと考えています。インバウンド需要も含め、四季折々の小国町を楽しめるよう夏や秋冬他シーズンのプログラムを作成し、事業を展開していきたいです」と話してくれました。今後、モニターツアーの結果を基にプログラムを磨き上げ、国内外に向けての販売を予定しています。

町民目線で魅力を発信

今年1月、町中心部の観光スポットや店舗、観光や町内での生活に役立つ情報等を掲載したまち歩きマップが完成しました。これは、町と(株)扶桑社（東京都港区）が連携して実施した事業であり、年齢や属性が異なる町内在住の制作メンバーが、実際に町を歩き、町民目線で観光客や移住者におすすめしたいスポットや店舗等の情報を選び、自ら取材なども行ってマップ化し



▲まち歩きマップ作成の様子

たもので、JR小国駅や役場、道の駅など町内各所に設置しています。

作成メンバーの一人である遠藤桃代さん（大宮）にマップの作成から完成までのお話をうかがいました。

「私自身が移住者であるため、まだ知らぬ小国町の良さを知りたいと思い制作メンバーに加わりました。

まち歩きでは、『こんな素敵なお店があったのか！』と発見の連続でした。例えば、横川ダムへ訪れた際、子どもが喜びそうな遊べるスペースが設置されていたりと、行かなければ知ることができなかった素敵なスポットがたくさんありました。

まち歩きマップは初めて小国町を訪れるかたはもちろんのこと、町民のかたにもぜひ手に取っていただきたいです！そして私のように移住されたかたや、移住を検討しているかたなどたくさんのか

たがたに利用していただき、様々なおすすめスポットへ足を運んで発信していただけたら嬉しいと思います」

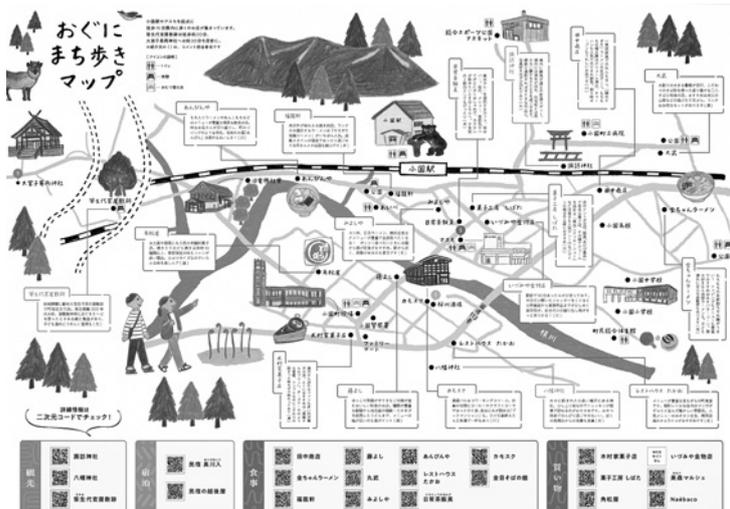
「選ばれる町」を目指す

令和6年版観光白書によると世界の旅行者の傾向として、持続可能な観光や地域貢献を重要視する機運が高まっているのに加えて、あまり知られていない魅力ある地域への訪問ニーズや、その地域ならではの体験に対する関心が高くなっています。このような傾向は、豊かな自然環境やそれらによって育まれてきた独自の文化を持つ本町にとって、誘客を拡大する大きなチャンスと言えます。

町ではこれからも地域資源を活用した観光・交流の促進、開発に取り組むとともに、関係機関と連携し、「選ばれる町」を目指していきます。

まち歩きマップの

ダウンロードはこちらから↓



※まち歩きマップには観光情報のほか生活に役立つ情報も掲載されています。役場、JR小国駅、道の駅等に設置しているほか、白い森ブランドポータルサイトからダウンロードできます。